

暑い暑い夏が終わる頃、二通のメールをもらいました。差出人は、気象庁の地震津波防災対策室の荒谷さんです。そのメールの一部を紹介します。

新宿で「架け橋きこえなかった3.11」を拝見させていただきました。映画を拝見し、本当に感銘を受けました。涙がこぼれました。

「津波警報が聞えなかった」「命と安全に関わる情報に格差があったはならない」という言葉は防災情報に携わる人間として、本当に何とかしなければならぬ問題だと思いました。また、緊急地震速報をご存知でしょうか？ 震度5弱以上の大きな揺れが来る前に、数秒から数十秒前に音声でみなさんにお知らせする情報です。この緊急地震速報も音による情報となっており、現状では耳が聞えないみなさんにとっては役に立たない情報であるように思えますが、何とかできないか考えているところです。

メールを読んで嬉しい気持ちになり、返事を打ち始めたら、熱いものが胸の奥からこみ上げて涙となり、あふれてきました。津波の警報が聞えなかったことを一番伝えられた人に「架け橋」を見てもらい、何とかしたいと思ってくれたことがとても嬉しくて…。

この映画の取材では、被災して傷ついている方々にカメラを向けることは精神的にも辛く、私のしていることは正しいのだろうかと何回も自問自答しました。取材しては編集して全国各地で上映して伝えていきましたが、それでも、私の中ではしこりが残っていました。被災した方々に取材することで辛いことを思い出させてしまつて申し訳ないという気持ちや取材の準備不足による自分の至らなさ、もどかしさなど、色んな感情を抱いていました。私は宮城の人たちの時間と労力をもらって取材させてもらったのに彼らの思いを十分に伝えることができなかった…そんな自分と向き合うのが辛くて、被災地の取材にピリオドを打とうと思っていました。

そんな時に新宿の映画館から、私が過去に取材して上映してきた作品を上映したいと申し出をもらいました。映画の配給をしている鎌田さんがその映画館の支配人に作品を渡したのだそうです。それが今年の1月の話です。私は嬉しかったのですが、上映したいという話には消極的でした。自分が納得しきれない作品を一般の人々は見ないだろうと。また、震災から2年以上たった今、上映して、人々に見に来てもらえ



AYAKO IMAMURA ESSEY

## 世界は優しくささやく - sounds so beautiful everyday -



photograph by Koji Matsumoto

るのだろうか不安もありました。しかし鎌田さんは、当事者の目線で作られた大震災の映画はほとんどなく、とても大事なことで、多くの人に見てもらいたい、と熱いメールをくれ、心を揺さぶられました。

鎌田さんが一生懸命なのに私が頑張らなくてどうする！と思つて、今まで私が編集した作品を見ました。使命感に燃えて感情的になつていいる部分もあり、2年以上たった現在にはそぐわない。空回りすると思ひ、再編集することにしました。しかし、その作業は、十分に伝えることができなかった自分と向き合う作業でもあり、辛いところもありました。

しかし、毎日映像を見ているとだんだん物語が浮かび上がつてきて、それからは無我夢中でつなげていきました。津波の警報が聞えないう問題だけじゃなく、今も仮設住宅で生活している聞こえない人たちのこと、支援活動で走り回っている聞こえない人たちのドラマも伝えたいとカットをつなげていきました。カメラを向けることさえ申し訳なく、まして三脚を据えて撮るのはできないと手持ちのカメラで回したため、手振れも多く、いい映像がないと凹みましたが、制作に120%の情熱を注ぐことはできると気づき、少し

でも人の心に伝わる作品にしようと思つた。面をつなげたり切ったりして仕上げました。

新宿上映が無事に終わり、しばらく経つたある日、荒谷さんからのメールを読んで初めて、「架け橋」を完成させることができてよかったと心から思いました。支援する人たちが被災した聞こえない人たちが、津波警報が聞こえず亡くなった方々に対して、「やっ」と皆さんの祈りを、想いを伝えることができ「ました」と心の中で報告しました。

そして、9月の初めに気象庁を訪ねました。荒谷さんはメールと同じようにとても熱く行動力のある方で「二階にできることからしていきますよ」と力強い言葉をいただき、とても感激しました。

私は20代の時映画で社会を変える！と使命感に燃えていました。でも、映画で社会を変えることはできない。社会を変えることができるのは人です。荒谷さんと話してそう思いました。

私はこれからも人の心に届く映画をこれからも撮っていききたい。「架け橋」はこれからです。全国の人たちに東北の人たちの体験と想いを届けたい。この映画が私からあなたへと架かる橋となれば嬉しいのです。

映画

### 架け橋

きこえなかった3.11

地震が起きた11日後の3月22日から今年の7月までの2年4ヶ月の取材をまとめた集大成で、今年8月に新宿ケイズシネマで上映された。今後も大阪シアターセブン(10月26日～)や北海道(12月21日)などでの上映が予定されている。



今村彩子 いまむらあやこ

名古屋出身 / Studio AYA代表  
愛知教育大学卒業 / 大学在籍中にカリフォルニア州立大学ノースリッジ校に留学し、映画制作・アメリカ手話を学ぶ。東日本大震災直後、宮城に向かい、被災者取材。全国各地で講演・上映活動もこなしている。主な映画「音のない3.11」「珈琲とエンピツ」  
<http://www.studioaya.com>